

桐生市歯科医師会

— 3 —

「フロスカ死か! (F loss or Die!)」
10年ほど前、アメリカのマスコミからこんなメッセージが発信され、全世界に衝撃が走りました。
何とも大げさな書き

出しだと思われるかも知れませんが、これは「デンタルフロス(糸ようじ)や歯ブラシを使ってお口の中のお手入れを毎日きちんやりますか? それとも、歯周病になってさらに命をおびやかす別

の病気にもかかり、寿命を縮めて死にますか? という意味です。歯周病はかつて「歯槽膿漏(のうろう)」

と呼ばれていたように、歯ぐきから膿(うみ)が出て、最後には歯を失ってしまうお口の中に限られた病気として、扱われてきました。

た。歯周病の直接の原因はお口の中のプラーク(歯垢)しこう)ですが、1980年代に入って、それに全身的

与えていることがわかってきたのです。歯周病が進行すると、歯周病原菌が歯ぐきの毛細血管から体

や脳卒中、動脈硬化を引き起こします。また、肺炎などの全身

身的疾患の発症や、早産・低体重児出産の原因となったり、糖尿病を悪化させたりする原因にもなります。歯周病は命にかかわる病気を引き起こすのに十分な危険因子なのです。

定期的な歯科医院で検診を受けることが大切です。
5、6日にJR桐生駅北口の桐生市保健福祉会館で「歯の衛生週間事業」が開催されます。「唾液(だえき)でわかる歯周病検査」も無料で行われますので、ぜひご来場ください。

全身に影響する歯周病

疾患や生活習慣などの環境因子が大きく関与していることが解明されました。さらに、今

入り込んで体中を巡り、血管の壁にとりついて血管を狭める手助けをします。その結果、

心臓病(狭心症・心筋梗塞)しこうそく)など

出にくいので、つい放っておかれがちです。